

## 第2回 夏の章 「夏の夜の笑い—文学から学ぶ英国式ユーモア」

### 落合真裕

#### イギリスのユーモアが理解しづらい理由

イギリスのユーモアは世界一と評されながらも、他国の人間にとっては理解し難いものが多いとよく耳にします。とは言いつつも、多数の研究者たちがその定義を試みています。『英国のユーモア』(1978)の著者であるJ.B.プリーストリーはユーモアの定義は難しいとしながらも、4つの構成要素、すなわち①皮肉を感じ取れる能力、②馬鹿らしさを感じ取れる能力、③ある程度の、少なくとも片足は地についている程度の現実との接触、④愛情から成り立っていると述べています。最後に愛情という要素を上げている点からも、ユーモアという言葉に一種の温かみを感じ取れる笑いとの関係性があることが窺えます。ですが一方で、『笑う大英帝国—文化としてのユーモア』(2006)の著者、富山太佳夫氏は「イギリスのユーモアにはある種の<残酷さ>がひそんでいるように見えるのである。それは機知(ウィット)やなごやかな笑いを手をつなぐだけではなく、残酷さともつるんでいるようである。」と述べています。この残酷さを含んでいるが故に、我々はイギリスのユーモアを理解しづらいと言われております。ですが、一步引いたところから客観的に眺める姿勢を持つことで、彼らのユーモアのセンスも理解しやすいものとなります。

#### シェイクスピアのユーモアセンス—チャーサーと比較しながら

チャーサーの『カンタベリー物語』では、冒頭の巡礼者の紹介の節で、料理人が梅毒に罹っていることを指摘しながらも、彼が作る料理はどれも天下一品だと褒め称えることで、感染の恐怖を和ませて可笑しみを作り出しています。シェイクスピアの場合は、そのような上品な見せ方をすることもあります。一方で、下品で残酷な表現も多く見受けられます。例えば『ロミオとジュリエット』でマキューシオは、死ぬ直前に致命傷を受けて「井戸ほど深くはないし、教会の門ほど広くもない。」と例えて死を軽く扱います。ですが、この作品では随所で死を予感させる言葉が盛り込まれていて、冷静さを失い感情的になって戦いに挑んで命を落としたことを観客は知っているの、彼の死はむしろ理性を欠いた人間の愚かさを浮かび上がらせるものとなります。また、『ハムレット』では殺害したポローニアスの遺体の在処を聞かれたハムレットは、遺体を蛆虫の餌と例えたり、王の手下である旧友たちを「国王の寵愛、恩賞、権力、なんでも吸いとるスポンジだ。」と表現します。当事者は自尊心を傷つけられるかもしれませんが、一步引いたところから見ている観客たちは、ハムレットがこのように馬鹿にする対象は、真実を見抜けずに名声や肩書にとらわれているスノッブたちであることを知っています。そのため、無知な彼らがむしろ道化師のように映るのです。



### ナンセンスやウィット

ユーモアの要素の一つのナンセンスの代表作は言葉遊びの多い『不思議の国のアリス』です。ネズミとの対話では、アリスが‘tale’「話」と‘tail’「尻尾」を聞き間違えたために、ネズミの身の上話が、尻尾のように聞こえてしまったり、ニセウミガメ‘Mock Turtle’の先生が‘tortoise’「陸上のカメ」（トータス）とよばれているのは、先生が‘taught us’「僕たちに教えてくれる（トータス）」だからだなどと、音を振った遊びが散見できます。その他には三段論法や諺を真似した遊びや、審議が後回しにされて判決が先の裁判など、現実世界での意味や意義を覆す不真面目さがこの作品には広がっています。この作品も、常識の概念にとらわれず一歩引いたところから眺めることで、これらの遊び要素の面白さが際立ってきます。ワイルドのウィットも同様です。『理想の夫』の中で「一番座り心地のいい椅子はどれだ。」と父親に聞かれたゴーリング卿は「私が座っている椅子ですよ。客人が来たときにね。」という台詞があります。これは、客が来たからといって、自己犠牲の精神で良い椅子を差し出すのは単なる見栄であり、そのような偽善ぶりを諷刺しています。言葉が発せられた状況下で判断するだけではなく、作品から少し距離を取って眺めることで、このような作者の意図した可笑しみを感じることができるのです。

### イングリッシュネスとしてのユーモアの精神

小林章夫氏は『イギリスの紳士のユーモア』の中でイギリス人の性格の根本に自分を含めて、人間や物事に対して「余裕ある態度で見つめる能力があるのではないか」と述べています。そして、客観的に眺めることで精神の均衡を保とうとする精神が彼等に備わっていて、その余裕と冷静さから彼らのユーモアも生まれることを述べています。つまり、文学作品を読む際も感情移入し過ぎずに、一歩引いたところから客観的に眺めることで独特のユーモアを感じられるのであり、彼等のセンスを分かち合うにはそれだけの精神的なゆとりが必要だということでしょう。

今後英文学作品に触れる際は、客観的にとらえることで味わえる可笑しみを楽しんでいただけたらと思います。ご清聴ありがとうございました。

文芸世界への招待状～四季物語～

---

**夏の夜の笑い**  
一文学から学ぶ英国式ユーモア

平成26年11月15日  
表現文化学科 専任講師  
落合 真裕

**ユーモアの構成要素**

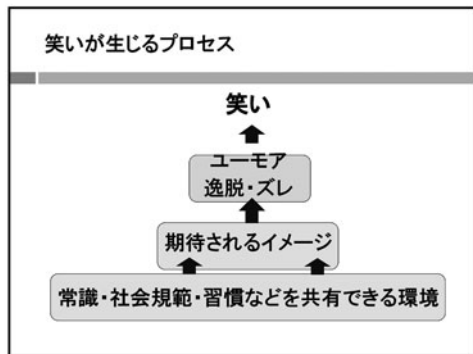
- \* 皮肉(Irony)を感じとれる能力
- \* 馬鹿らしさ(Absurd)を感じとれる能力
- \* ある程度の、少なくとも片足は地についている程度の現実との接触
- \* 愛情

(J. B. プリーストリー、『英国のユーモア』 小池謙・君島裕守訳 東京: 秀文インターナショナル, 1978. 参照)

**ユーモアの定義について**

イギリスのユーモアにはある種の「残酷さ」がひそんでいるように見えるのである。それは機知(ウィット)やなごやかな笑いを手をつなぐだけでなく、残酷さともつんでいるようである。十九世紀のフランスの批評家イポリット・テーヌもそのことが気になったようで、「別の国の人間にとっては、イギリスのユーモアは不愉快なもの。われわれの神経にとってはキツすぎる」という感想を残している。

(富山太雄夫、『笑う大英帝國—文化としてのユーモア』 東京: 岩波書店, 2006. 11. Print.)



*Canterbury Tales*

---

<料理人の節>

この組合の連中は、一人の料理人を連れて来た。雛鳥の骨髓をブードレ・マルチアウントという香料とガリンガーレという香料とで煮物にするためだ。この男はよくロンドンのビールの味を鑑別した。焼くことも、煮ることも、照り焼きも、フライもできるし、ポタージュもつくれるし、パイもよく焼いた。気の毒に思われたのは、この男が向う脛に壞疽をでかしていたことだ。ブランクマンジェールという去勢した雄鶏の肉を入れたプリンにかけては、天下一品であった。

(G. チャーサー、『カンタベリー物語(上)』 西條晴三郎訳 東京: 筑摩書房, 1989. 20. Print.)

*Romeo and Juliet*

---

<マーキューシオが傷を負った直後>

Rom. Courage, man; the hurt cannot be much.  
Mer. No, 'tis not so deep as a well, nor so wide as a church-door; but 'tis enough, 'twill serve: ask for me to-morrow, and you shall find me a grave man.  
(3.1.99-102)

ロミオ しっかりしろ、大きな傷じゃない。  
マーキューシオ そう、井戸ほど深くないし、教会の門ほど広くもない。それでもこたえる、ききめは十分だ。ために明日、おれを訪ねてみろ、はからずも墓に眠る変わりはたおれの姿をみとめるだろう。

(ウィリアム・シェイクスピア、『ロミオとジュリエット』 小田島雄志訳 東京: 白水社, 2003. 107. Print.)

*Hamlet, Prince of Denmark*

<ポロニアスを殺害した後の場面>

Ham. [...] Besides, to be demanded of a sponge! what replication should be made by the son of a king?  
 Ros. Take you me for a sponge, my lord?  
 Ham. Ay, sir, that soaks up the king's countenance, his rewards, his authorities. (4.2.12-16)

ハムレット [...]おれだって一国の王子だ、スポンジに命令されて簡単に返事ができると思うか?  
 ローゼンクランツ この私がスポンジだとおっしゃるのですか、殿下?  
 ハムレット そうとも、国王の寵愛、恩賞、権力、なんでも吸いとるスポンジだ。  
(ウイリアム・シェイクスピア、『ハムレット』小畑島雄志訳、東京：白水社、1996、166。Print.)

*Alice's Adventures in Wonderland*

<アリスとネズミの対話>

'You promised to tell me your history, you know,' said Alice, 'and why it is you hate—C and D,' she added in a whisper, half afraid that it would be offended again.  
 'Mine is a long and a sad tale!' said the Mouse, turning to Alice and sighing.  
 'It /s a long tail, certainly,' said Alice, looking down with wonder at the Mouse's tail: 'but why do you call it sad?'  
(Carroll, Lewis, 'Alice's Adventures in Wonderland and Through the Looking-Glass, London: J. M. Dent & Son, New York: E. P. Dutton, 1973, 21-22. Print.)

*Alice's Adventures in Wonderland*

犬はおかしくない(大前提)

↓

犬は怒ると唸り、嬉しいとシッポを振る。(小前提)

↓

私(猫)は嬉しいと唸り、怒るとシッポを振る(小前提)

↓

ゆえに、私(猫)はおかしい。(結論)

Oscar Wilde's wit

Morality is simply the attitude we adopt towards people whom we personally dislike.  
(Wilde, Oscar, *Sunflower Edition The Works of Oscar Wilde*, Vol. 6 New York: AMS press, 1980, 308. Print.)

LORD CAVERSHAM. ...Which is the most comfortable chair?  
 LORD GORING. This one, father. It is the chair I use myself, when I have visitors.  
(Wilde, Oscar, *Sunflower Edition The Works of Oscar Wilde*, Vol. 6 New York: AMS press, 1980, 323. Print.)

ユーモアのテクニク(表現方法)

- ◆誇張、パロディ、比喩  
スレを増幅させる。
- ◆見立てと図地反転  
本末転倒、主題と背景を反転。評価方法や価値を逆転させるなど。
- ◆アイロニーと諷刺  
皮肉、諷刺、からかい、あてこすり、揶揄。

(森下伸也、『もっと笑うためのユーモア学入門』東京：新曜社、2008、参照)

イングリッシュネス

彼らの性格の根本の部分に、自分を含めた人間全般と種々の物事とを、余裕ある態度で見つめる能力があるのではないかという点である。無論、人間だから時には感情を爆発させたくなる時もあるだろう。あるいは悲哀の情にとらわれて、これを人目もはばからず表に出したくなる時もあるかもしれない。

しかし、そうしたことをする一歩手前で踏みとどまり、自分自身を外側からながめることで、何とか精神の均衡を保とうとする。これはイギリス人、中でもその最良の部類たるイギリス紳士の大きな特色ではあるまいか。そして、この余裕と、深刻な事態に瀕しても失われることのない冷静さの中から、あの独特のユーモア感覚も生まれてくるのだと言えよう。

(小林孝夫、『イギリス紳士のユーモア』東京：国書社、2011、136。Print.)